



# 双塔

カトリック新潟教会

2016年7月  
No. 338

## 偉大な聖人ヨセフ

新潟教会協力司祭 鎌田耕一郎

聖家族の長、神の救いのドラマのなかで、ヨセフの演じた役割は重要であっても、謙遜と沈黙のベールに覆われており、その期間も短いものであったと思われる。

ヨセフは、イエス12歳の時、確かに生きていた（ルカ2・41以下）。しかし、イエスの公生活を通して一度もその姿を表わさないのである。また「福音書に表れるマリアから受ける印象は、夫をなくした妻のそれである」（ダニエル・ロップス）。古くからの言い伝えによると、ヨセフはイエス19歳のときにこの世を去ったといわれている。

すべての聖人たちのなかで、近づきたいという感じの最も少ない聖人は聖ヨセフであると思う。「名前を聞いただけで、心ある人達はほほえみを禁じ得ない聖ヨセフのこの偉大なる姿」（クローデル）といわれるその偉大さは、私たちに萎縮せしめないものである。

目立つことは何ひとつなく、聖家族の生活を支えるため、終日黙々と働き、仕事に精をだしたヨセフ、その労働者としての平凡な姿が、私たちに深い親近感を抱かせるのではないだろうか。

大工ヨセフ イエスの時代のユダヤ人の大部分は、牧畜、農業、漁業によって生計をたてていた。しかし、「手をたよりにする」職人も存在した。聖書は25種の職業をあげている。ヨセフがナザレで職とし、したがって青年イエスもそれに従事した「大工」（マルコ6・3）もその一つである。

大工の仕事は家屋の建築よりも、指物師、細工師、彫刻師、車大工、くびきと鋤の製作者、要するに木については、なんでもする職人であった。イエスのたとえの中にあられ「目の中の<sup>はり</sup>梁」（マタイ7・4）、「岩上の家と砂上の家」（マタイ7・24以下）、あるいは「私のくびき」（マタイ11・29）、「手をすきにつけてから後ろを振り返る人」（ルカ9・62）などの言葉に、大工の目と道具についての知識を見ることが出来るかもしれない。ヨセフの仕事場でも、注文が必要とするあらゆる仕事がおこなわれたであろうし、イエスが幼年時代、ヨセフの手になる木製の玩具で遊んだかも知れないという、ほほえましい想像もしてみたい。

そして、ヨセフの生涯をつらぬく一つの言葉がある。

「マリアの夫ヨセフは正しい人であった」（マタイ1・19）。

ヨセフは「自分の大工の仕事を忠実に行うことによって、労働のすばらしい、輝かしい例を示した」（ピオ12世）のである。そして、ミサの典文の中に「神の母おとめマリアと聖ヨセフ」とヨセフの名前が加えられたことはまことに喜ばしいことである。

## そよかぜ便り

### ■ 街頭募金 ---- 5月22日(日) ----

新潟地区の教会で構成している新潟地区信徒使徒協議会が、今年 写真提供：菊地司教様のBlog び  
万代シティバスセンターの一角で街頭募金を行った。今年は熊本大地震の被災者救援のための募  
金で、呼び掛ける全員が「カトリック新潟教会」と記したたすきを掛け、聖心の布教姉妹会の二  
人のシスターも一緒に立たれた。道行く多くの方々との協力があり、集まったお金はカリタスジャ  
パンに送られた。

### ■ 聖体賛美式 ---- 5月29日(日) ----

緑滴る五月の最終日曜日。ルルド前で「ロザリオの祈り」が捧げられた後、『キリストの聖体』の  
祭日のミサが鎌田神父様の司式で行われた。

神父様はお説教を「イエス様のプレゼントを感謝して受け取らなければならない」と始められ、聖  
別されたホスチアにおけるイエスの現存について、聖トマス・アクィナスと聖ボナヴェントウラのそ  
れぞれの見解も紹介された。聖体拝領後に、神父様にご聖体を顕示され『聖体賛美式』が行われた。

### ■ ナジ神父様が英語ミサを司式 ---- 6月5日(日) ----

センター前で三崎神父様らと立ち話をされておられるナジ神父様！お目に掛かるのは、復活祭後に  
見附・栃尾教会に異動されて以来のこと。懐かしいシャイな笑顔は健在。思わず「すずめは、神父様  
に気付いているかしら？」と探すと、梢でチュンチュン♪

この日、神父様は見附教会のミサを終えてから古巣の新潟教会に駆けつけ、12時からの英語ミサを  
司式された。「帰ってきました」と説教を始められ、神父様は「神は誰の死をも喜ばれない。イエス様  
の奇跡はそのことを表している。しかし“神の時”(In His Time)がある」と、見附教会の様子も  
織り交ぜながら話された。ミサ後には、センター1Fで茶話会が開かれ、ナジ神父様を囲んで和やか  
な歓談風景が見られた。

